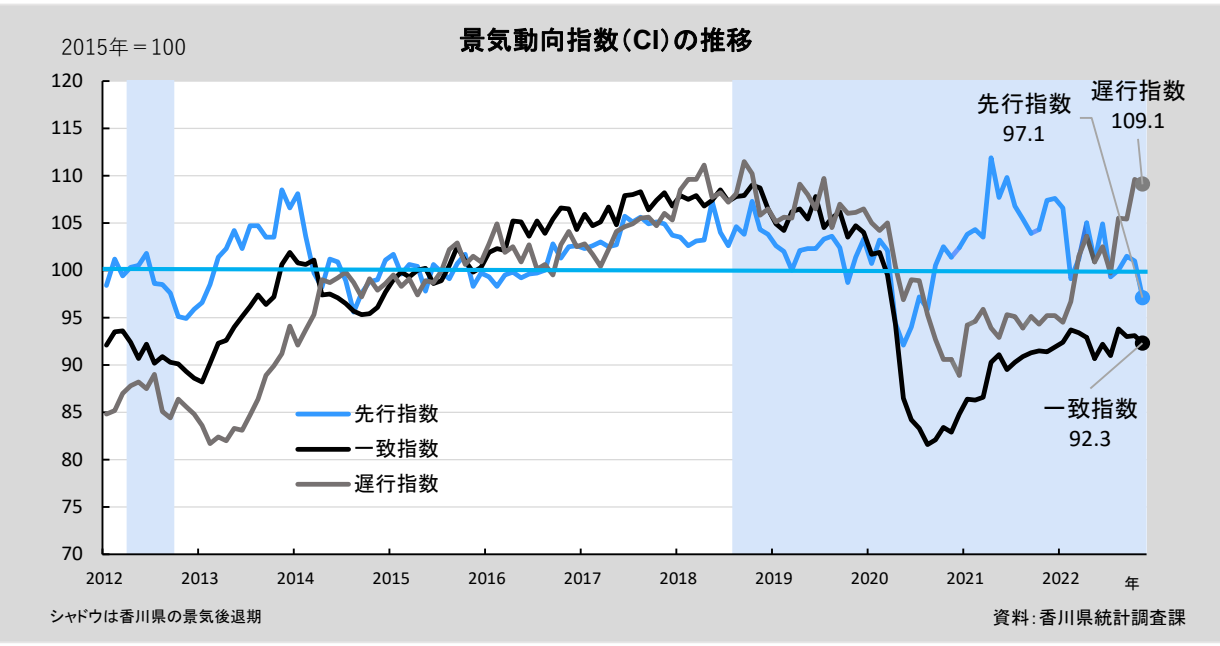


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	緩やかに持ち直している。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	減少している。
生産活動	持ち直しの動きが一服している。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに減少している。
観光	持ち直している。

景気動向指数(かがわCI) 一致指数 2カ月ぶり下降



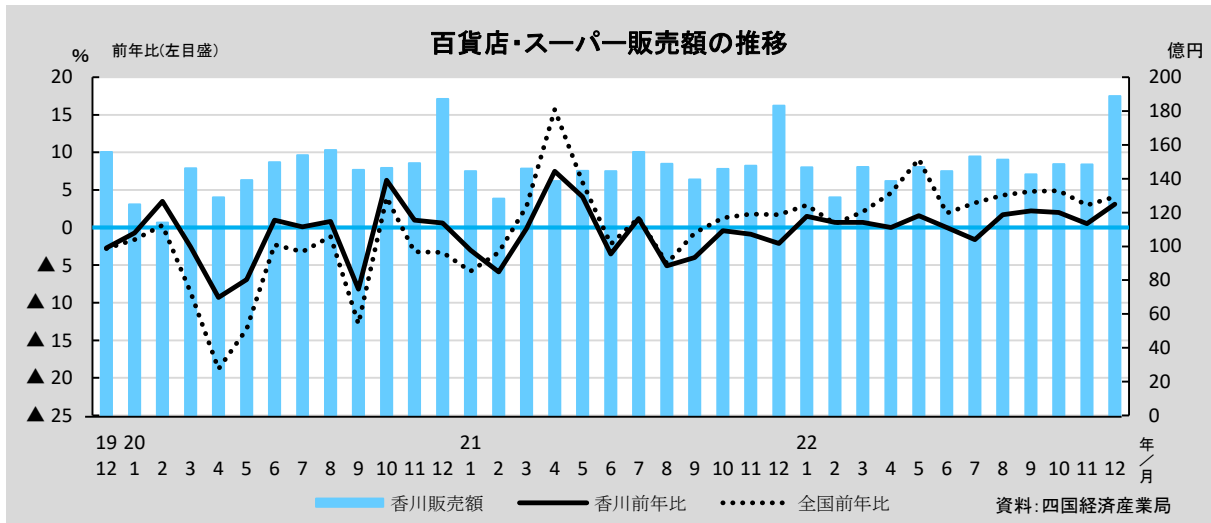
景気の現状をみると、11月のCI一致指数は92.3（前月比▲0.8ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI先行指数は97.1（同▲3.9ポイント）と2カ月連続で下降。CI遅行指数は109.1（同▲0.5ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、建築着工床面積、鉱工業生産指数、百貨店・スーパー既存店販売額等が下降に寄与したことにより、前月から0.8ポイントの下降となった。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.54	1 雇用保険受給者実人員	0.04	1 常用雇用指数	▲ 0.18		
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.66	2 有効求人倍率	0.01	2 有効求職者数	0.66		
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 1.71	3 所定外労働時間指数	0.56	3 消費者物価指数	▲ 0.09		
	4 生産財生産指数	▲ 0.03	4 鉱工業生産指数	▲ 0.24	4 家計消費支出	▲ 0.79		
	5 新設住宅着工戸数	▲ 1.52	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.21	5 鉱工業在庫指数	0.14		
	6 金融機関貸出残高	0.44	6 建築着工床面積	▲ 0.74	6 法人事業税調定額	0.13		
	7 消費者態度指数	▲ 0.66	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.22	7 第3次産業活動指数	▲ 0.10		

●百貨店・スーパー販売額

5 カ月連続増加 ↑

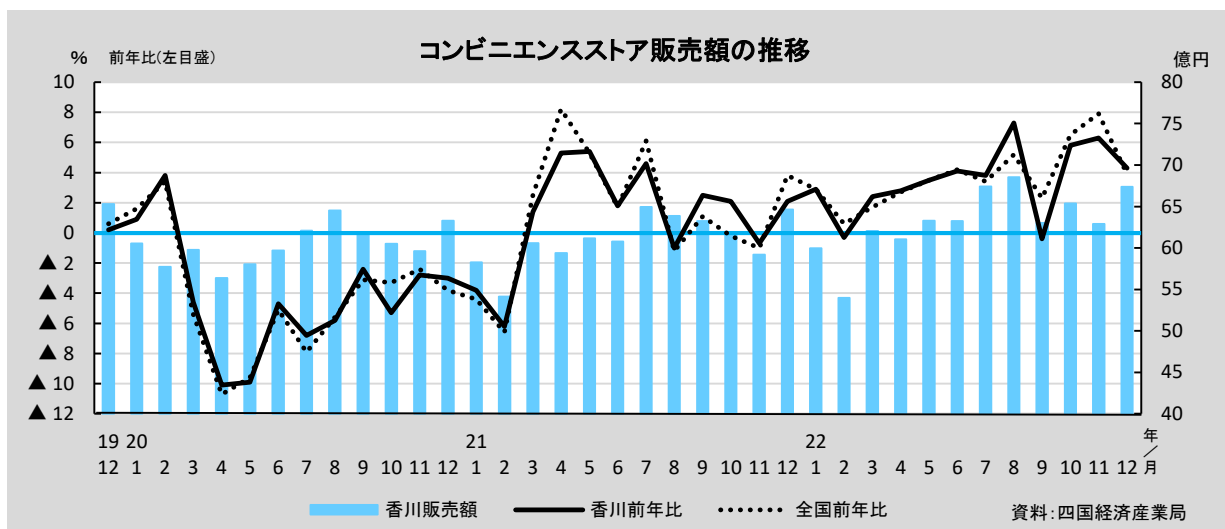


2022/12月	衣料品	身の回り品	飲食品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	140,622	80,329	1,345,974	2,719	6,484	83,775	228,875	537	1,889,315
前年同月比(%)	7.8	12.8	0.4	▲ 12.5	▲ 0.2	155.2	▲ 7.4	▲ 13.8	3.1

12月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は188.9億円で、前年同月比+3.1%と5カ月連続で増加した。人流回復に伴う年末商戦の活性化で「衣料品」は同+7.8%、「身の回り品」は同+12.8%と好調だった。また、外食控えから調理器具など「家庭用品」が同+155.2%と大幅に伸びた。

●コンビニエンスストア販売額

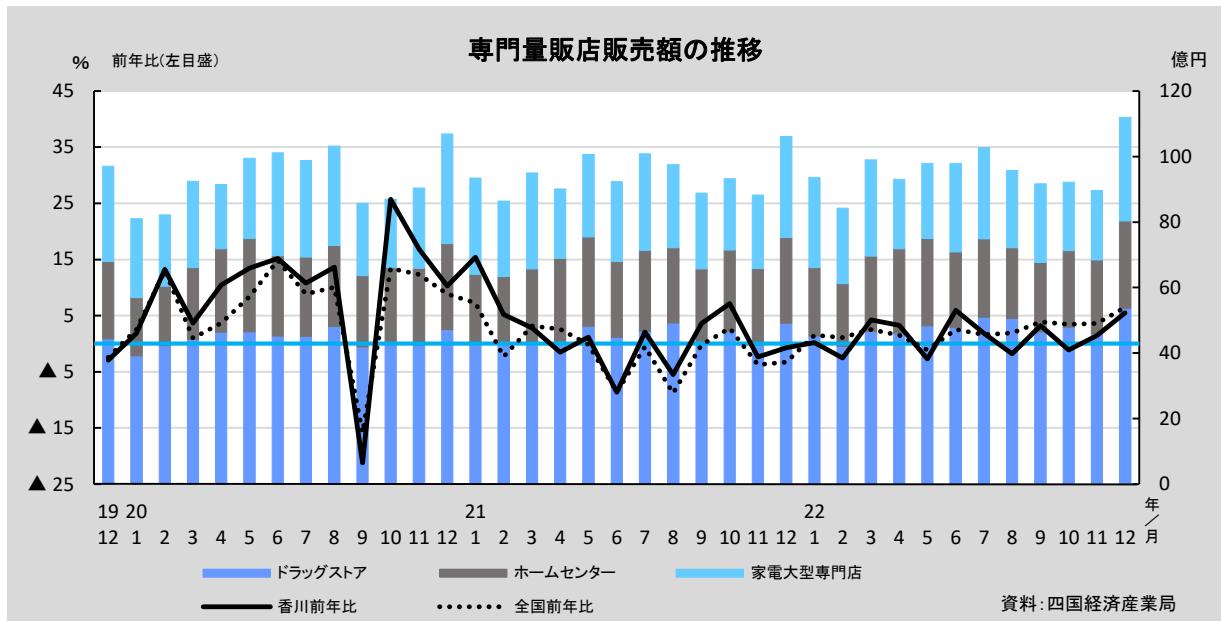
3 カ月連続増加 ↑



12月のコンビニエンスストア全店(409店)の販売額は67.4億円で、前年同月比+4.3%となった。商品価格の上昇、販売促進の取り組みの効果などで販売額が増加したほか、カウンターコーヒーやフライヤー商品などが好調で、3カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

2 カ月連続増加 ↑

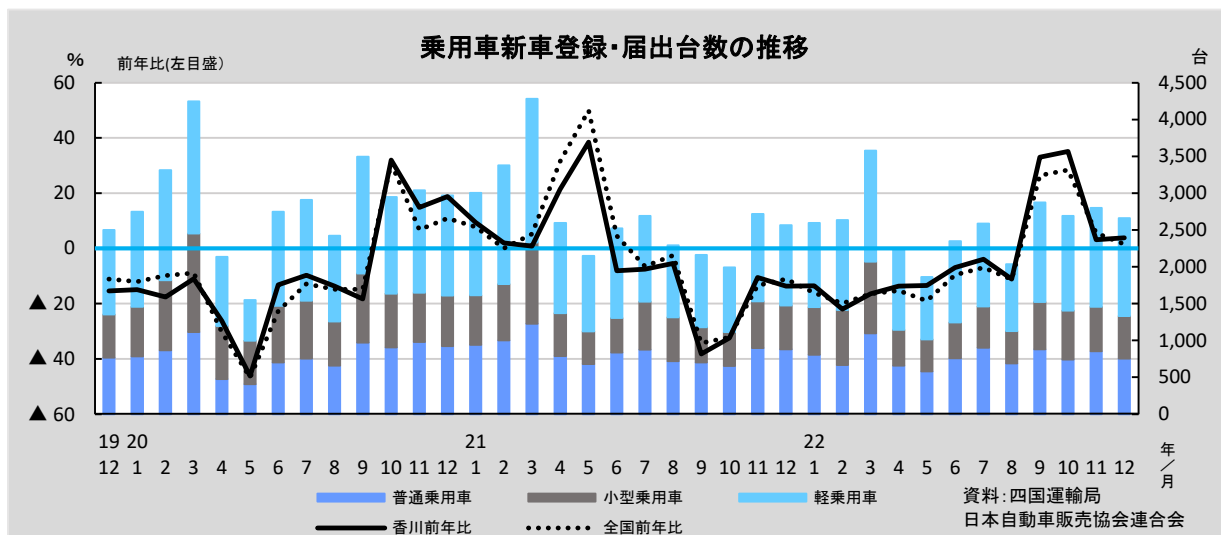


12月の専門量販店全店（211店）の販売額は112.0億円で、前年同月比+5.5%と2カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、気温低下で季節家電の動きが良く、通信・情報家電も伸びたことから、販売額は31.6億円で前年同月比+2.3%、**ドラッグストア**（136店）は、ヘルスケア商品が伸びたほか、食品や調剤医薬品が堅調に推移し、販売額は53.7億円で同+9.5%となった。**ホームセンター**（46店）は、気温低下で季節家電の動きが良く、冬物の作業服や手袋なども伸び、販売額26.7億円で同+1.8%となった。

●乗用車新車販売台数

4 カ月連続増加 ↑



12月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,662台で、軽自動車为好調で全体を押し上げ、前年同月比+3.8%と4カ月連続で増加した。

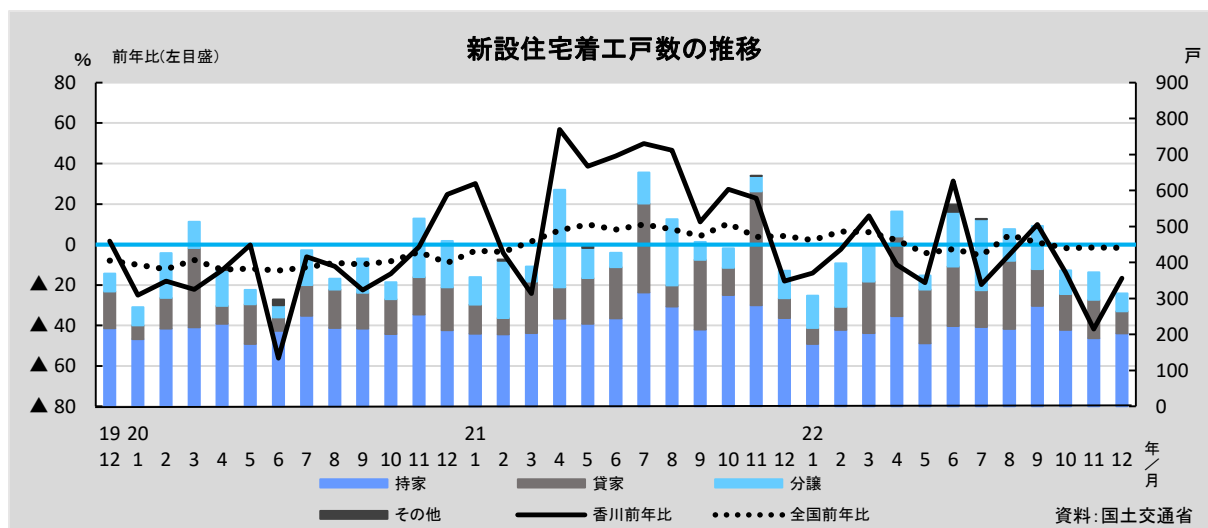
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲14.4%、小型乗用車で同▲3.4%、軽乗用車で同+22.4%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

3 カ月連続減少 ↓



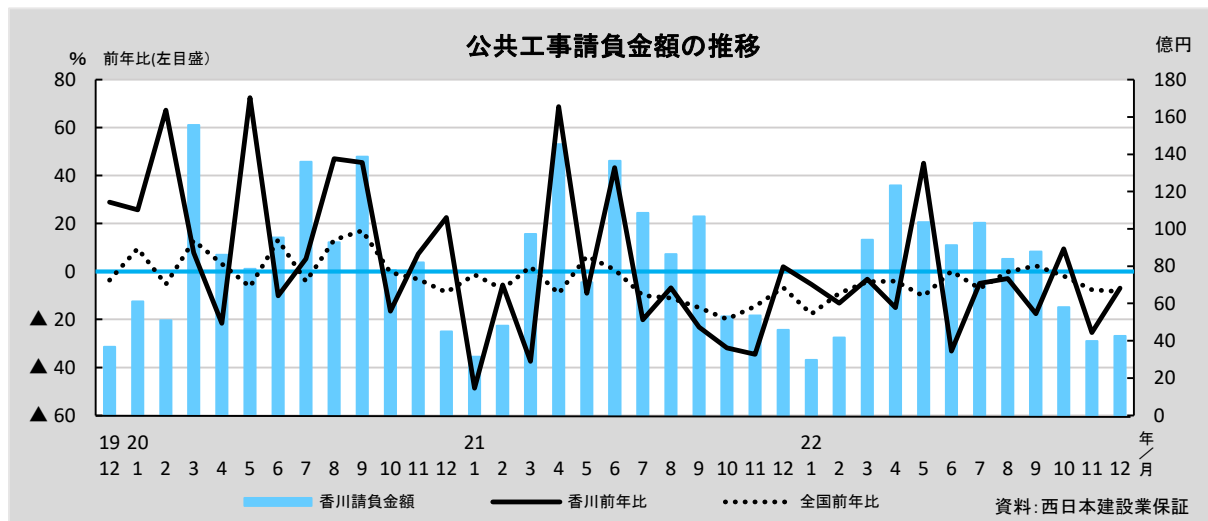
12月の新設住宅着工戸数は314戸で、前年同月比▲16.7%と3か月連続で減少しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲17.5%、**貸家**で同+10.9%、**分譲住宅**で同▲34.2%となった。

公共投資

減少している

●公共工事請負金額

2 カ月連続減少 ↓

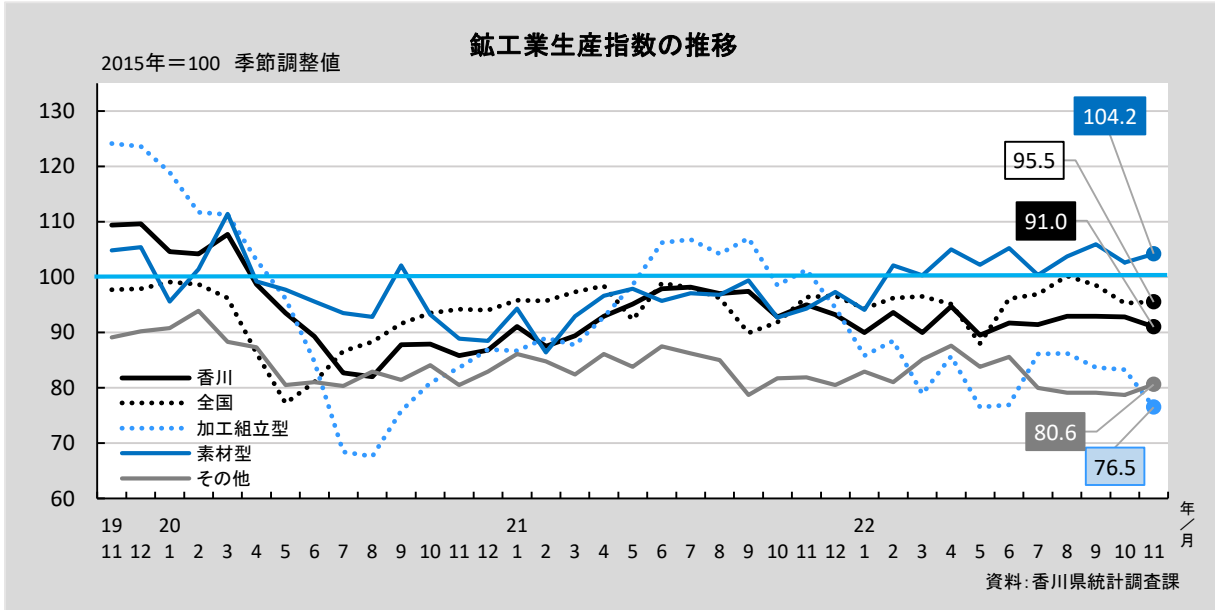


12月の公共工事請負金額は42.7億円で、前年同月比▲6.9%と2か月連続で減少しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲95.6%、**県**で同+52.7%、**市町**で同▲16.4%となった。

2022.4月～12月の累計では前年同期比9.1%減少している。

● 鉱工業生産指数

2 カ月連続低下 ↓



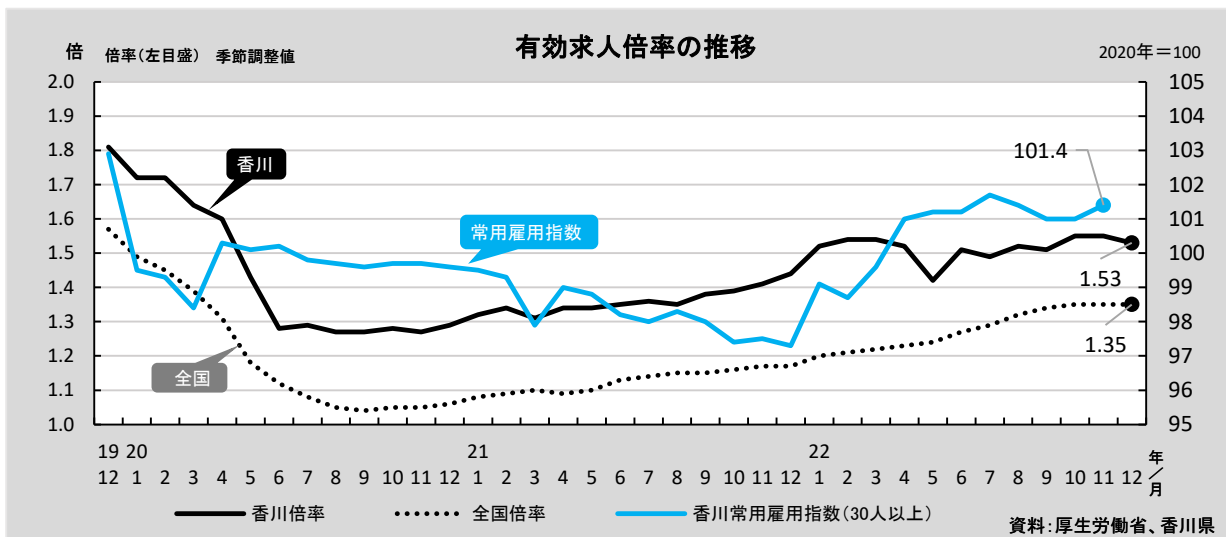
11月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は91.0（前月92.8）となり、2カ月連続で低下した。

業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比▲17.1%、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同▲14.5%と低下した。

一方、素材型の非鉄金属工業（電気金など）は同+27.7%と上昇した。

● 有効求人倍率

3 カ月ぶり低下 ↓



12月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.53倍（全国13位）と前月より0.02ポイント低下した。

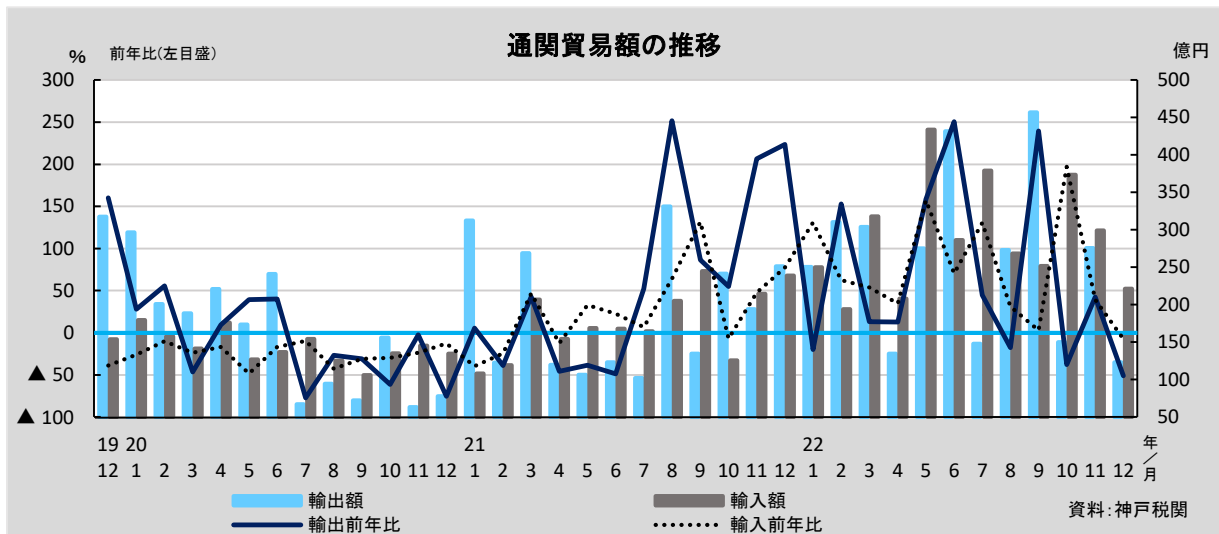
新規求人（原数値：前年同月比）は、公務・その他、情報通信業、教育・学習支援業、生活関連サービス・娯楽業等で増加し、全体で+1.7%と21カ月連続で増加した。

11月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.4となり、前年同月比は9カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.34
事務的職業	0.75
販売の職業	2.77
サービスの職業	3.47
生産工程の職業	2.78
輸送・機械運転の職業	2.32
建設・採掘の職業	6.85
運搬・清掃・包装等の職業	1.24

貿易

輸出、輸入ともに減少している



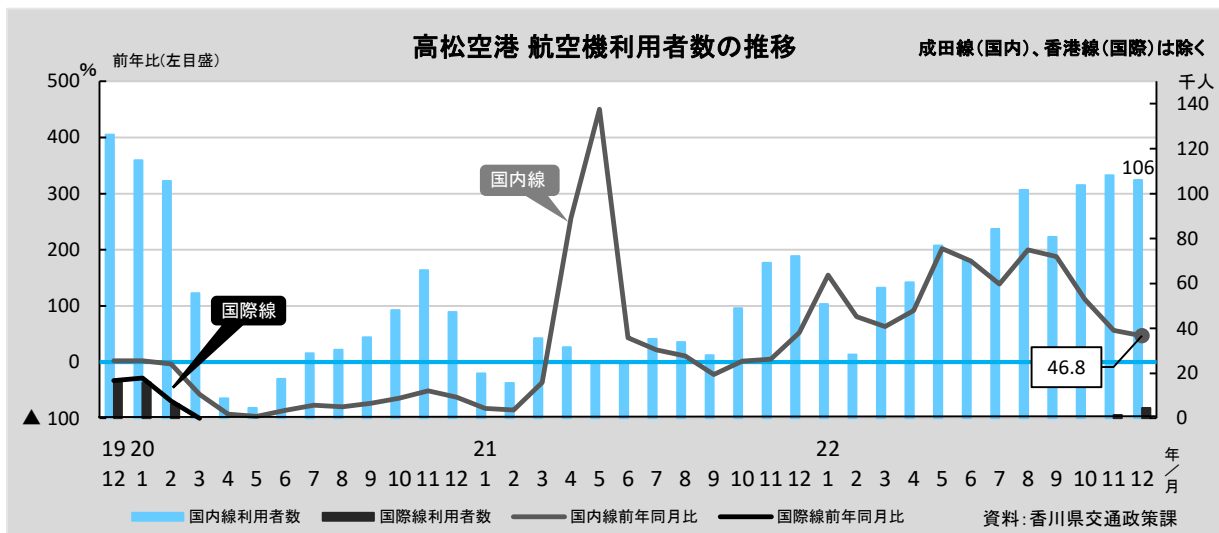
12月の輸出額は前年同月比▲51.1%の122.9億円、輸入額は同▲7.2%の221.5億円となり、差し引き98.6億円の入超となっている。

輸出は、前年同月120億円だった貨物船輸出額がゼロとなった。輸入は、前年同月34億円だった液化天然ガス輸入額がゼロとなった。

交通

国内線は15カ月連続増加、国際線はソウル線のみ運行

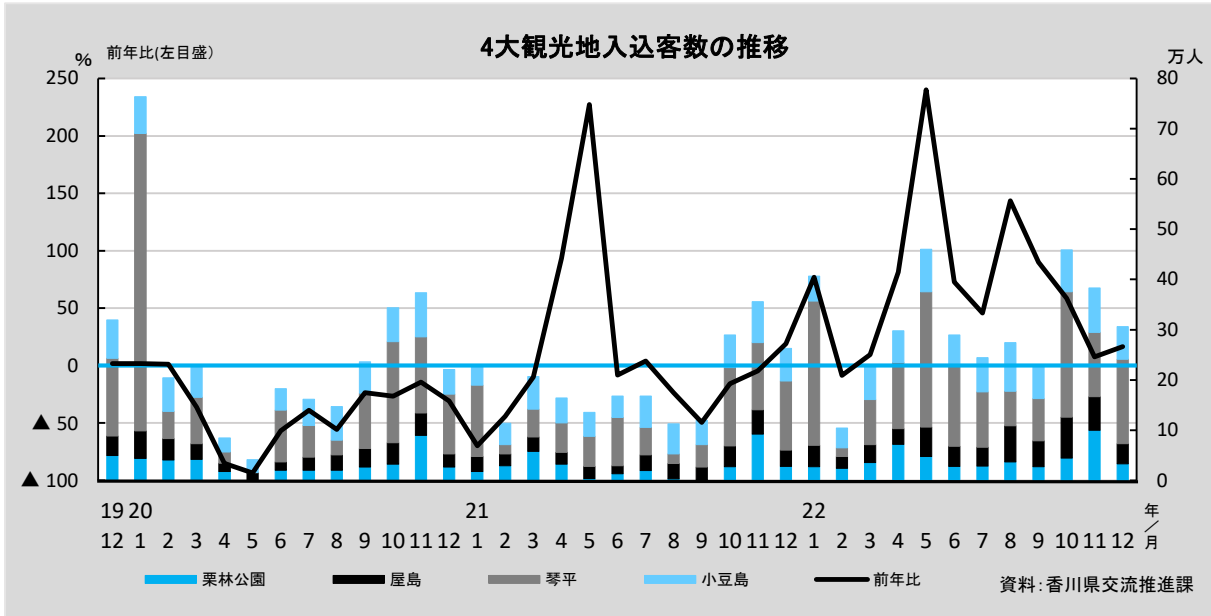
●高松空港旅客輸送実績



12月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が106,008人（前年同月比+46.8%）となり、15カ月連続で増加した。羽田線は98,874人（同+41.9%）、那覇線は7,134人（同+183.2%）となった。コロナ禍前の2019年同月比では▲16.1%となった。

国際線（ソウル・上海・台北線）は、2022年11月から運航を再開したソウル線は4,569人となった。

●主要観光地入込客数

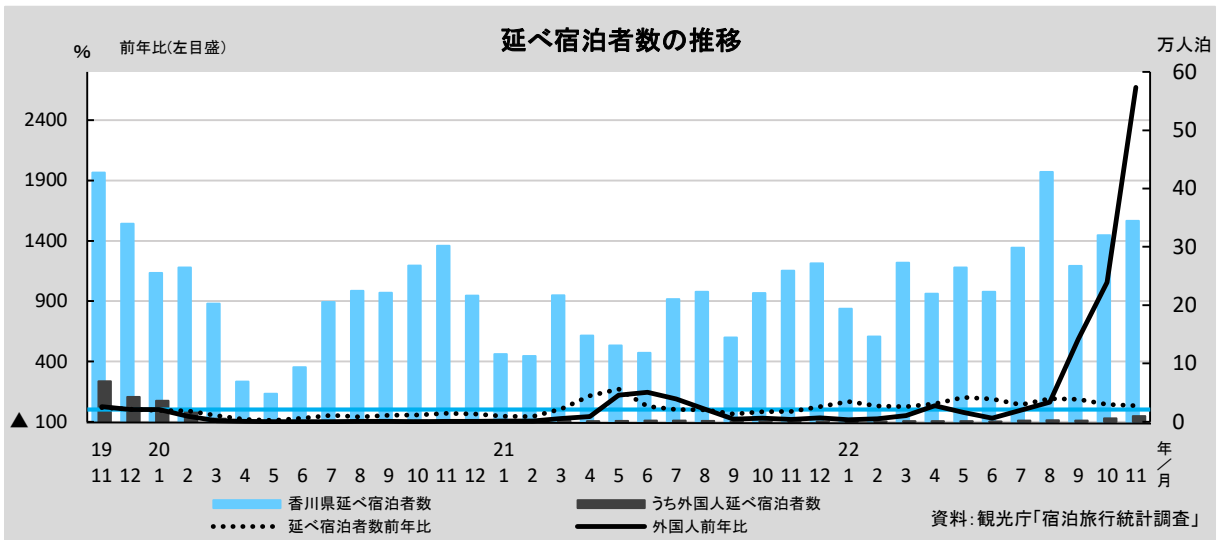


観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
12月(人)	前年同月比	32,870	40,123	168,000	64,976	305,969
		17.3%	25.3%	21.7%	0.4%	16.4%
1~12月累計(人)		504,127	581,182	1,765,000	827,769	3,678,078
		55.0%	64.0%	80.7%	23.8%	58.2%

12月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+16.4%と10カ月連続で増加した。行動制限緩和や全国旅行支援などの効果で人流が回復し、栗林公園は前年同月比+17.3%、屋島は同+25.3%、琴平は同+21.7%、小豆島は同+0.4%と全てが前年を上回った。

1~12月の累計では前年比+58.2%となった。

●延べ宿泊者数



11月の延べ宿泊者数は344,880人で、前年同月比+33.0%と12カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲19.3%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は9,700人となり、前年同月比+2671.4%と4カ月連続で増加した。2019年同月比では▲86.1%となった。